



視察報告書

このことについて、下記のとおり実施したので報告します。

記

第86回全国都市問題会議 報告書

日程：令和6年10月17日(木)、18日(金)

会場：兵庫県姫路市 アクリエひめじ(姫路市文化コンベンションセンター)

【テーマ】 健康づくりとまちづくり ～市民の一生に寄り添う都市政策～

①今回の会議の目指すところと3つの論点

1つ目は、これまでの健康づくり政策はいかなるインパクトをもたらしてきたのか。

2つ目は、住民の健康づくりに対して自治体が果たすべき役割は何か。

3つ目は、住民の健康づくり政策は今後どう展開されるべきなのか。

以上3点を議論する。政策策定を考える上で、新たに提唱された「Society5.0」社会の到来に加え、ICTの発展、AI/ビッグデータの利活用など、来るべき社会変革を見据えることで、より実効性を兼ね備えた政策を生み出すことができる。

②これまでの「健康づくり政策」を振り返る。

③自治体は住民の健康づくりにどう貢献できるか。

④今後の「健康づくり政策」における課題と方策。

⑤新たな時代の「健康づくりとまちづくり」を考える。

以上をテーマとして取り上げ、学識者や都市行政関係者等による多面的な報告、討議をいただくことで、これからの健康づくり政策のあり方を大いに論じていただきたいと説明がありました。

■主報告として、兵庫県姫路市長 清元 秀泰 氏から

(市民の「LIFE」(命・くらし・一生)を守り支える姫路の健康づくりとまちづくり)

1. 人生100年時代の到来へ健康づくりの重要性について

(1)日本の平均寿命について、約70年間で約30歳以上延伸している。

- (2) 当市の健康寿命、平均寿命より男性は -1.26歳(80.3歳)、女性は -2.64歳(85.07歳)で、男性よりも2倍以上「不健康な期間」が長くなっている。
- (3) 健康とは、単に長寿であるだけでなく健康寿命の延伸が重要である。
- (4) 健康がまちの活力を生み出す。人生100年時代の到来が迫る中、まちに活力を生み出す持続可能な社会を実現するために、健康づくりは欠かせない要素であり、健康づくりへの支援はこれまで以上に重要である。

2. 健康づくりに資する当市の取組み

(1) 市民による主体的な介護予防を促進

- ① 軽度認知障害(MCI)等の予防支援
- ② 生活習慣の改善ならびに各種疾病の早期発見および重症化予防

(2) ウォーカブルなまちづくり

- ① 公共空間の利活用、歩行者利便増進道路「ほこみち」
大手前通りや駅前周辺を、歩行者利便増進道路「ほこみち」として、指定している。

(3) ICTを活用した健康づくり

- ① マイナンバーカードを活用した救急業務の迅速化・円滑化
- ② 「ひめじポイント」

国民健康保険の特定保健指導や介護支援ボランティア活動などの対象事業に参加することで、市民がポイントを獲得できる。市民の健康増進活動への参画に貢献。

(4) 未来を担う子どもたちの健やかな成長を支援

- ① こどもの未来健康支援センター「みらいえ」の開設
思春期保健、母子保健の包括的な支援拠点として「相談」「交流」「学びあう」各年代のライフステージに応じた切れ目のない健康支援を実施している。
- ② 子育て情報の発信
応援アプリ「ひめっこ手帳」「わくわくチャイルド」「姫路市 LINE 公式アカウント」、子育て情報の発信強化に取り組んでいき、これからも子どもから高齢者まで、全ての市民の「LIFE」が輝き、誰もが健やかに生き生きと暮らせるまちの実現を目指している。

■一般報告として、筑波大学システム情報系 谷口 守 教授から (生き物から学ぶ健康なまちづくり)

- 1. 市民の健康づくりにおけるまちづくりの重要性
- 2. バイオミメティクス(生物模倣)への展開
- 3. 都市は病気 ①循環保全 ②肥満 ③骨粗しょう症 ④がん
- 4. 競争から協調へ

■一般報告として、千葉県流山市長 井崎 義治 氏から (都市そのものを健康にするまちづくり ～ストレスを軽減し、リフレッシュできるまちへ～)

- 1. 「健康都市」という考え方との出会い
- 2. つくばエクスプレス沿線区画整理事業で失う緑を回復する方策はないか

3. 環境価値・景観価値を高める「グリーンチェーン制度と認定制度」

流山市は、「都市そのものを健康に」するために、「すべての政策に健康視点を」を基軸とした政策の立案と推進により、すべての市民のストレスを軽減し、同時にリフレッシュできる環境整備や施策展開に、継続的に取り組んでいく所存です。市民のWell-Beingを実現することが、流山市民の健康と幸せにつながるからとのこと。

■一般報告として、兵庫県立大学 畑 豊 副学長から

(IT/AIの健康分野への適用例 ～姫路市の健診データ解析と歌唱による誤嚥予防～についての報告)

第2日目(10月18日(金))

(健康づくりによるまちづくり パネルディスカッションにあたって)

○中央大学法学部 宮本 太郎 教授をコーディネーターとして

○高岡病院児童精神科長 三木 崇弘 氏

(心理社会面から見た、子どもの健康)

○NPO法人日本栄養パトネット理事長 奥村 圭子 氏

(食を切り口とした1人1人の望む暮らしを支援する栄養パトロール事業)

○長野県茅野市 今井 敦 市長

(未来型「ゆい」で紡ぐ健康高原都市・茅野の構築)

○大阪府泉大津市 南出 賢一 市長

(「未病予防対策先進都市」をめざした「官民連携」「市民共創」のまちづく)

以上4名のパネリストによる

1. 健康の定義の変遷

(1) 病気？健康？中間ゾーンの膨らみ

(2) ライフサイクルを通してのケア

(3) ポピュレーション・アプローチと「場」づくり

(4) デジタルも活用した医療・ケア連携

2. 「健康づくりからまちづくりと市民参加へ」について、それぞれ活発な意見が展開されました。開催地の姫路市は、人口52万人の県内2番目の播磨の中核都市で、政治、経済、文化の中心地として栄え、世界文化遺産、国宝姫路城とともに、海(瀬戸内海)、山、川などの豊かな自然や多彩な農水産物に恵まれ、ものづくり産業が集積する商工業都市として発展しています。

以上、報告いたします。